

# めひの野



ISO9001認証取得

〒930-0143  
富山県富山市西金屋6682番地  
社会福祉法人めひの野園  
TEL.076-436-0270  
発行責任者 中田 匡  
(表題書)  
高岡市の中川上町3の31  
(故) 社浦 获水先生

栽培・堆肥部門のハウスで、卒業シーズンに向けた出荷を待つサイネリア

## めひの野園での職域接種に参加して

新型コロナウイルスの感染が拡がり、マスクに消毒といった感染防止に努める日々が今も続いています。

2月11日(金)、めひの野園で行われた職域接種に、看護婦として参加させて頂きました。

日常の変化に不安を感じやすい障害のある人への接種は、混乱や興奮、拒否するなどの場面も想定していたのですが、杞憂に終わりました。馴染みのある場所で、仲間と一緒に職員さんに見守られながら接種出来るという環境が、気持ちに落ち着きをもたらしていたように感じました。

接種会場の配置や動線も配慮されており、接種しやすいように利用者さんのシャツの袖を洗濯ばさみで止めるなどの細やかな事前準備が整えられていたことが、スムーズな接種に繋がったのだと思います。

接種後に一人の利用者さんが笑顔で発した「これでばっちりだね」の言葉通り、安心して作業に取り組める日常が、一日も早く戻ることを願っています。

八木小児科医院看護師 八木 恵子

めひの野園の今日のニュースと明るい明日を紹介します!

# あしたのめひの

## 第23回 ひと味違うPOP ~目指せ売上UP!~



「売上向上と利用者支援を結びつける仕事は、自分に合っている」と話す酒井支援員

様々な販売イベントでひととき目を引くPOP。これを目にしたお客様は次々とめひの野園の販売ブースで足を止めます。

独自の感性を生かし、個性的なPOPを作り続けているウォーム・ワークやぶなみ鶏卵・堆肥部門の酒井いづみ支援員に話を聞きました。

Q. もともと絵や文字のデザインが得意だったのですか?

—めひの野園で働く前に、ドラッグストアに勤めていたことがありました。その店は手書きのPOPに力を入れていました。「何をどう売りたいか」という戦略を立ててPOPを作り、それが実際に売上につながっていくのを実感できるのは楽しかったですね。

Q. 好きな画材はありますか?

—これまでは段ボールにポスターカラーペンで書くことが多かったのですが、最近は筆ペンにハマっています。みしまの工房で作られた手すき和紙だと、わざと擦れさせて筆ペンならではの表現ができるのが面白いですね。

コンビニやスーパーに立ち寄った時、目立つPOPがあればつい足を止めて参考に使っています。

Q. 卵のパッケージには利用者さんが書いた文字が採用されていますね。

—当園の書道教室に参加している利用者さんが書いた字がとても個性的で、それに魅力を感じた時から、「この特技を何かに利用できないか」とずっと考えていました。

鶏卵・堆肥部門を担当することになったことがきっかけで、卵のパッケージに利用者さんが書いた字を使うことができ、やりたかったことが達成できたと感じています。



利用者さんの特技を活かした卵のパッケージ

Q. パッケージを変えて、売上も伸びたそうですね。

—和紙に手書き文字のPOPにしてから、売上が2倍になったお店もあります。「平飼いたまご」と分かりやすく表記したことで商品がイメージしやすくなり、高級感の演出にもつながったのだと思います。



シンプルで分かりやすく、目を引くPOP

Q. 今後の展望は?

—もっとお客様の目を引き、より多くの品を手にとってもらえるように、めひの野園で作られている様々な商品に、統一感のあるPOPを付けたいと考えています。のぼり旗を作るのもいいですね。売上向上を考えると同時に、利用者さんの特技を活かすためにやってみたくいこともどんどん浮かんでいます。今後のウォーム・ワークやぶなみにご期待ください。

和紙班とのステキなコラボレーションが実現しましたね。  
記・広報委員会 柴田 香菜江



食

を  
彩

る旬の幸

食彩部門が創る「めひの味」



かんたん!  
おいしい!

### めひのレシピ

#### 椎茸の佃煮のにゅう麺

材料 (2人分)

素麺	2束
白だし + 水	550 ml (白だしの濃縮に合わせる)
塩	少々
ネギの小口切り	適量
椎茸の佃煮	適量

- ① 鍋に水、白だしを入れて温め、塩で味を調える
- ② 鍋に湯を沸かし、素麺を固めに茹でる
- ③ 素麺を水でもみ洗いし、ザルで水気を切る
- ④ ①の中で③の素麺を温め、器に盛る。ネギと「椎茸の佃煮」を乗せて出来上がり!

VOL.3

#### めひの野園のロングセラー商品 「椎茸の佃煮」

食感を楽しんで!  
作業センターふじなみ

#### 「ちびっこ椎茸」を使用

多くの方に愛されてきためひの野園のロングセラー商品「椎茸の佃煮」。その材料に使われている椎茸は、「作業センターふじなみ」で収穫されたものです。その中でも、パックセンターで選別された「ちびっこ椎茸」と呼ばれる小さなものが使われています。

「小さ過ぎて商品として売れない椎茸を活用するという理由もあるのですが、小さな椎茸を切らずにそのまま佃煮にすることで、独特の食感が活かされていると思います」と話すのは食彩部門担当の寺岡主幹。パックセンターから運ばれてきた「ちびっこ椎茸」を水洗いすれば下準備は完了です。



パックセンターで選別された「ちびっこ椎茸」

次に大型の鍋で椎茸を煮込んでいきます。調味料は、醤油、みりん、酒、砂糖、生姜のみで、添加物は使用していません。特別な材料は使っていませんが、その場合には試行錯誤を繰り返したそう、何度か園長に試食をお願いし、ようやく今の味でゴーサインが出たのだとか。「昔ながらの味付けだからこそ、飽きが来なくて、長年に渡ってお客様に愛されているのではないだろうか」と寺岡主幹は話します。その後2時間ほど煮詰め、冷ませば椎茸の佃煮の完成です。



写真上の鍋を2時間ほど煮詰めると下の写真のような状態に

おすすめの食べ方を聞くと「温かいご飯のお供が定番ですが、椎茸は一年中生産されているので、夏は冷たい素麺、寒い時期はにゅう麺に合わせるのもおすすめです」とのことでした。この「椎茸の佃煮」は、当園のアンテナショップ「希望」の他、JAの直売所などで販売中です。

お酒のおつまみにも良いですね。  
熱燗との相性は最高です!  
記・広報委員会 保木 諭吉



# めひのキラリ！人

Vol.7



今回のキラリ！人  
 作業センターふじなみ  
 ハウス部門

金川 弘行さん

めひの野園では、「利用者さんの出来ること、得意なこと、好きなことを活かし、仕事につなげていく」ことをモットーに支援をしています。利用者さんの中には、自分の仕事に没頭するうちに素晴らしい技術を身に付けていつしか「めひの職人」と呼ばれている人々がいます。そんな「キラリ！」と光る「めひの職人達」を紹介していきます！

皆さん「芽かき」ってご存知ですか？  
 今回の職人は人呼んで・・・

## めひの「芽かき職人」です。

「作業センターふじなみ」では、利用者さんが「やりがいを感じて働ける場」として、菌床ブロックの生産から椎茸栽培、パック詰めまでの一連の作業工程に取り組んでいます。

ハウス内に並べられた菌床ブロックを手に取り、椎茸の摘み取り作業をしているのが金川弘行さんです。

「19歳の時からめひので仕事をしているので、今年で24年目になります」と話す金川さん。今ではベテランの域に達し、椎茸生産に関わるほとんどの作業をこなす「作業センターふじなみ」が誇る万能選手へと成長しました。

「職員たちも彼を頼りにしているので、体調不良等で休まれた日は、どう埋め合わせをするのか悩むほどです」と話すのは、ハウス部門担当の久郷指導員。特に驚くのは「芽かき作業」でスピードと丁寧さを両立していることなのだとか。

「芽かき」とは、菌床ブロックに生えてきた小さな椎茸を、重なり合わない程度の間隔を開けて間引く作業のこと。同時に形の悪いものも間引くことで、より品質の良い椎茸を収穫することにつながる大事な作業です。



芽かき前のもの(写真上)と芽かき後(写真下)



正確で丁寧な「芽かき」の技は、長年の経験で身に付けたもの

「自分にしかできない仕事」  
 がやりがいに。

一日に500個以上の菌床ブロックの芽かき作業や椎茸の摘み取り作業を行う金川さん。「これらの作業に加え、彼にしかできない作業が『ハウスダクト』の交換です」と話すのは同部門の室澤主任。ハウス内は温度管理によって24℃に保たれていますが、温風が直接当たってしまうと椎茸が乾燥してしまいます。そこでハウス内にダクトを通し、温風を循環させているのですが、経年劣化などでダクトが破損した時の交換作業は職員でも難しく、金川さんしか任せられない作業なのだそうです。



「ダクト交換は自分にしかできない仕事」と誇らしげな金川さん

職員からの信頼も厚い金川さん。これからも「ふじなみのエース」として頑張ってくださいね！

最初は小さな椎茸を収穫しているのだと思いますが、それが「芽かき」作業なのだとはじめて知りました。

記・広報委員会 岡崎 秀徳



# ハーティとやまin富山 が開催されました!



## 障害者の社会参加と自立を目指して

コロナ禍で、いろいろなイベントの自粛が相次ぐ中、「より多くの方々に障害者への理解を深めていただきたい」という願いを込め、出来る限りの感染予防対策をした上で、県内の障害者施設・事業所で作られた商品が並び販売イベント「ハーティとやま」が県セルプ協の主催により開催されました。

1月14日(金)〜16日(日)、アピアショッピングセンターの1階催事場で、「ハーティとやまin富山」が開催されました。コロナ禍につき、消毒液の設置や、レジにガードフィルムを設置するなど、万全の感染対策がとられていました。会場にはマスクを着け、密を避けながらも多くのお客様が足を運ばれ、賑わいを見せていました。

## 事業所ごとに工夫を凝らした自慢の商品がズラリ

会場では事業所ごとに販売ブースが分けられ、それぞれに工夫を凝らした商品が並びます。その中でも特にお客様の目を引いていたのはめひの野園の販売ブース。「本物」にこだわって作られた「平飼卵」や「飛騨地鶏」、「採れたての新鮮な野菜」といった、めひの野園ならではの商品が次々とお客様の手に取られていきました。



大人気の「平飼卵」。品切れになる度に新たに卵を納品する「鶏卵・堆肥部門」担当の酒井支援員

商品の特長を分かりやすく伝え、親しみを感じてもらうために欠かせないのがPOPです。「めひの野園のPOP名人」こと酒井支援員が作った平飼卵のPOPは「さすが」のひと言。多くのお客様の目を引き、納品してもすぐ品切れ状態になるほどの売れ行きを見せていました。

「ネギは敢えて『泥付き』のまま販売しています」と話すのは「栽培・堆肥部門」の西尾指導員。泥が付いているということは採れたての証拠で、新鮮さを長持ちさせることができるのだとか。「鶏卵・堆肥部門の酒井支援員の影響もあって、POP作りにも力を入れています」と言うだけあって、ネギの販売ブースでは段ボールに手書きのPOPが目立っていました。



「利用者さんと一生懸命作った野菜を、自信を持ってお届けしたい」と話す西尾指導員

今後も「ハーティとやま」が開催されることで、障害者施設・事業所で作られている商品を多くの方々に手に取っていただき、障害者の社会貢献や自立の一助になればと考えています。

3月には「ハーティとやまin魚津サンプラザ」が開催予定です。  
記・広報委員会 浦田 茉耶



# クリスマス会・忘年会特集

昨年末に各事業所で行われたクリスマス会・忘年会の様子をご紹介します。なお、各事業所のクリスマス会・忘年会には、「NHK 歳末たすけあい」による助成金をいただいています。

## やねのうえのガチョウ



12月4日(土)、呉羽ハイツで忘年会を行いました。コロナ禍で旅行などの行事が中止になったため、旅行の雰囲気味わおうと、呉羽ハイツで会席料理をいただき、温泉につかって今後の仕事への英気を養いました。

## 梨の木苑



12月21日(火)、グループホーム「いわせの」で忘年会を行いました。ピザやお寿司など、美味しい料理やデザートを食べた後は園長サンタが登場し、みんな大喜びでした。



## 春の苑

12月16日(木)、呉羽ハイツで忘年会を行いました。美味しい料理やデザートを食べた後はDVD鑑賞をし、利用者さんたちの笑顔がたくさん見られた忘年会になりました。

## ウォーム・ワークやぶなみ



ウォーム・ワークやぶなみの食堂で忘年会を行いました。日頃お世話になっている取引先に仕出し弁当をお願いし、みんなで美味しくいただきました。

## みしまの工房



みしまの工房は、12月14日(火)に呉羽ハイツでクリスマス会を行いました。ピザやハンバーグなど、みんなが大好きなメニューやデザートのケーキをいただき、楽しいひと時を過ごしました。

## 作業センターふじなみ



作業センターふじなみは、密を避けるため12月15日(水)、21日(日)、22日(月)の3班に分かれ、「魚津グランミラージュ」に日帰り旅行へ行ってきました。フルコースの食事を味わい、魚津水族館を見学して楽しんできました。

「NHK歳末たすけあい」は、共同募金会を通じて国内の福祉施設や支援を必要とする方々のために役立てられています。

私が20歳になった頃、昔に流行った「写ルンです」が再び流行した。デジタル一眼レフカメラのような、鮮明で色鮮やかな写真は撮れないが、フィルム写真のような雰囲気、今どきの言葉で言う「エモい」写真が撮れるのである。

父から「死んだじーちゃんの写真フィルム、物置に眠ってるかも」と聞かされ、探してみると、本当に物置の奥で静かにお宝が眠っていた。「これは面白いものを見つけた!」と、さっそく使ってみようとしたが、中のフィルムは何枚かが撮ったままになっていて、そのフィルムは使用期限が過ぎてしまっていて、きれいには撮れない。それでも「お試しだ」と思い、そのまま残りのフィルムを撮り切ってカメラ屋に持って行くと、案の定、色褪せた写真が現像されてきた。しかし、そこにまた味があり、そこからカメラにハマっていったのである。

そして、なんとこの時、生前の祖父が撮った写真も現像できていたのである。ほとんどが何の写真か分からなくなっていたが、最後に撮ったと思われる2枚だけが写っていた。それは、私の思い出の中の祖母と祖父よりも少し若い2人が、牧場のようなところでお互いを撮り合った写真だった。祖母の顔はかろうじて分かったが、残念ながら祖父の表情は変色してしまっていた。ただ、病気になる前から細くなった祖父であることはシルエツトで分かった。寂しいような、でも少し不思議な体験だった。

現在は、形見のフィルムカメラでいろいろなものを楽しんで撮っている。

「お空にいるじーちゃん、最高に面白い趣味になってるよ。」

## 群竹

muretake

めひの野園職員の  
雑感コーナー



みしまの工房生活支援員  
島田 葉奈



はい!! 毎度  
福祉の現場に突撃!!  
今日は、おなじみ  
「手づくりパン工房  
やねのうえのガチョウ」  
に  
やってきました!!

# しいたけくん

じつは!! 今回  
取材するのは、  
「やねのうえの  
ガチョウ」では  
ないんです。

お話を聞くのは  
営業・販売課の、  
辻 紀子さんです!!  
「お兄ちゃん  
ジャマ」

こんにちはー  
辻です!!

今、辻さんは  
外部のお店に  
委託販売する  
パンを  
積み込んでいる  
ところ...おっと

福祉施設に  
「営業・販売課があるのは  
めずらしいんですね

そうですね。

以前は、職員が、  
利用者さんの支援、  
製造、販売まですべての  
業務をやっていたんです。

うわー

営業・販売に特化した  
部門を作れば、  
それぞれの専門性を  
より発揮  
できるので

という、  
中田園長の発案で、  
「営業・販売課」が  
作られたんです。

なるほどー!!

毎日  
利用者さんと一緒に、  
めひの野園の商品を  
扱ってくださっている  
お店を  
回ります。

やほー!!

今日はまず、  
地域に愛される  
「ケーキ屋さん、  
「シャルロット」  
さんに

園自慢の  
平飼いな自然卵を  
納品します

次は  
姉中町のスーパー  
「フレック」  
さんです。  
栽培部門で  
作っている  
花や、  
ガチョウのパンを  
納品します。

利用者さんと  
一緒に、パンを  
陳列!!

興、パン、しいたけの  
ほかに、  
加工品や手工芸品など、  
いろいろな商品も、  
お届けしています。

お客様の声を  
聞けることが  
やりがいに  
なっています。

園の商品が  
地域のお店に  
選ばれているのが  
誇らしいですね!!

いいね!!

これからも  
「園と地域の橋渡し役」  
として  
笑顔で  
届けていきたいです!!

# 飛騨流葉牧場のオートキラー設置完了

東海農政局からの令和三年度農山漁村振興交付金、飛騨市からの農福連携支援食鳥施設整備事業補助金及びめひの野園保護者会からの寄付金を活用し、オートキラーを設置しました。

食鳥処理工程にかかる労力と時間が削減され、外部から大規模な食鳥処理業務を受注することができるようになりました。これにより、事業所の収入アップが図れ、利用者の工賃向上が見込めます。

ここに設置完了の報告を申し上げますとともに、感謝の意を表します。

### 記

- 一、総事業費 九九〇万円
- 一、農山漁村振興交付金(東海農政局) 四九五万円
- 一、農福連携支援食鳥施設整備事業補助金(飛騨市) 二四七万五千元
- 一、めひの野園保護者会からの寄付金 五〇万円



## ご寄付ありがとうございました

(2022.1.1~2022.2.18) 敬称略

- 有岡 美恵子 富山市
- めひの野園保護者会
- (有) シャルロッテ 富山市
- (学) NHK学園 東京都国立市

寄付金振込口座番号  
北陸銀行呉羽支店 店番号 120  
普通預金 6077230  
社会福祉法人 めひの野園

## 来訪者

(2022.1.1~2022.2.18) 敬称略

- (有) アイシステム 杉木 靖二
- 中村印刷工業(株) 中村 国雅
- (株) 鈴木一級建築士事務所 鈴木 保二
- 酒井 武志
- 長越 章子
- 棚田 益功
- 中央管機カクユー(株) 中村 智昭
- (株) 浪速電機工業所 草野 久志
- 富山県火災共済協同組合 長森 智昭
- 東洋ゴム北陸販売(株) 中村 博一
- 北銀リース(株) 中村 安芳
- 関口 雅隆
- 富山市役所建設部公園緑地課 榎尾 正樹
- 奥田 建人

## 編集後記

年が明けて早々、園長に「めひの野園写真部」の創部をお願いしたところ、「同じ趣味を持つ職員同士が、事業所を越えて交流するのは良いことですよ」と快諾いただいた。それから当園の「写真愛好家」達に声を掛けると、皆快く参加してくれることになった。ここに「めひの野園写真部」が発足したのである。

部員の中には高価なデジタル一眼レフカメラを所有し、交換用のレンズも数本所持している強者もいれば、祖父の形見のフィルムカメラを愛機にしている者、可愛い甥っ子の撮影に情熱を注ぐ者等々、愛用の機材も違えば被写体もそれぞれで面白い。

私はと言うと、本紙の表紙に使うために「栽培・堆肥部門」のハウスまでカメラ片手に行ったり、職員のインタビュ写真を撮ったり、自宅で「にゅう麺」を作って撮影したり(いずれも本紙参照)と、もっぱら仕事のための撮影が多い。それでも暇を見つけては、ドライブがたら風景写真を撮りに行くのが楽しみの一つになっている。

助手席に座るのは、昨年末に購入したばかりのCanonのミラーレスカメラ「EOS RP」。まだまだ初心者の私にもそれなりの写真を撮らせてくれる、とても頼りになる「相棒」である。

(岡崎 記)